

斑点米カメムシ情報第3号

(「あいちのかおりSBL」など普通期水稻を対象とする)

平成24年9月3日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病虫害防除室

1 発生状況・・・多いです！

8月下旬の巡回調査の結果、斑点米カメムシ類は水田内では過去10年で最も多く、畦畔雑草では過去10年で3番目に多く捕獲されました(表1)。

ミナミアオカメムシ(図1、2)は、水田内では0.24頭/ほ場と、4年前に調査を始めてから2番目に多く捕獲され、8月上旬の調査時に比べ捕獲数が増加しています。

表1 斑点米カメムシの調査結果(平成24年8月下旬調査)

調査場所	捕獲数(頭/ほ場)
水田内	3.30(1.62)
畦畔雑草	5.98(3.47)

注1) 捕虫網20回振り調査

注2) ()内数値は平年値(平成14~23年の平均)

注3) 104ほ場での平均



図1 ミナミアオカメムシ幼虫



図2 ミナミアオカメムシ成虫

2 防除対策

畦畔や水田内をよく観察し、畦畔雑草や水田内でカメムシ類を確認したら、穂揃期に薬剤防除(表2)を実施しましょう。その後も発生が多い場合は、7~10日後に再度防除を実施してください。農薬の散布にあたっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。

表2 斑点米カメムシ類に対する主な防除薬剤

薬 剤 名
ベストガード粒剤
キラップ粒剤
キラップフロアブル
スタークル粒剤、アルバリン粒剤
スタークル豆つぶ
スタークル液剤10
ダントツ粒剤